

(様式1)

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	私たちは、入居者の権利と生きる権利を 尊重 します。	○	他地域から、入所してきた利用者がホームのある地域で自分らしく生きていくための支援をしていきたいと思っています。
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	施設内に提示し、共有している。いつでも理念を念頭に入れ入居者に接している。	○	忙しい時でも(忙しい時ほど)、一瞬頭の中で共通の理念を思い浮かべてみるようにしている。
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	入居時に家族に説明している。又、運営推進委員会や町内の行事に参加することで地域の人々に理解してもらえるようにしている。		
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	町内会の集会、行事に参加している。地域にある保育園との交流もあり、行事の度に行き来している。運営推進委員会の中で認知症に関する質問、相談など受けている。	○	行事、会合だけではなく、日常の生活の中でのつきあいが、もっと活発になっていければと思っています。例えば地域の人たちが自由に立ち寄れるホームづくり等。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	現在、ベストと思っているケアも外部評価により、普段気がつかない事への気付きのチャンスとなりケア水準の底上げになっています。	
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの様子、行事報告、地域の方からは敬老会等の行事報告があり、そこで色々意見交換しホームでは地域との連携の強化とケアの改善に役立っています。	
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者とは運営、課題解決等サービス向上に資する事での助言を頂いている。	○ ホームのある地域のフォーマル、インフォーマルなサービスの充足、不足等も行政に発信していきたい。
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修に参加し、研修内容も職員会議にて学んでいる。現在、必要としている入所者はいないが、いつでも援助できるようにしている。	
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、職員でそれを共有し、密室化になりがちな1ユニットだけのホームなので、ホーム内をできるだけガラス張りの援助をするようにしている。身体的虐待は言うまでもなく、無視、言動的虐待も見過ごすことのないように配慮している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明している。利用者、家族の不安、疑問点は契約後も、その都度説明し理解して頂くようにしている。	
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が職員に気軽に話しや相談ができるような関係、環境作り(家族と利用者が個室での会話ができる。ホーム玄関にご意見箱を設置)に努めている	
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時、毎月のホーム便りで報告している。健康状態、金銭管理はその時々で電話連絡する時もある。	
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が気楽に職員に話し掛けれる雰囲気づくりに努めている。玄関にはご意見箱、国保連の苦情処理の連絡先も提示している。それらの意見はホームをより良くする為の気づきであり真摯に受け止めたいと思います。	
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議での運営に関する意見、提案は、管理者は聞きそれを現場に反映させるべきものは反映できるようにしている。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	柔軟な勤務調整に努めている。利用者の状況の変化、緊急時に備え職員の電話番号、組織図を作成している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人間の異動は最小限にし、移動、離職があった場合は、利用者のメンタルケアへ配慮する様にしている。		
5. 人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	官公庁等への研修にはできるだけ参加させ、職員のスキルアップをはかっている。	○	ホームにつとめてから介護福祉士を取得した職員がこの2～3年で4人いて職員のレベルアップを援助していきたい。
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人間の勉強会、県内、市内の研修にも参加し他施設の取り組みの良い点などは取り入れたり、サービスの向上を計っている。		
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	昼食後のお茶を飲みながらのおしゃべり、又、互助会の親睦などでストレス軽減につとめている。	○	できれば、管理者自身が個々のストレスを汲み取り援助していける職員との関係になれば良いとおもいます。
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の職員の良い点は助長し、認め、働きやすい環境になる様に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている 本人、家族の思いをゆっくり傾聴し一緒に解決できるように努力している。		
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている 本人、家族が今現在何を必要とし、困っているのか見極め当グループホームで良いのか他サービス利用が良いのか対応に勤めている。		
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している 住み慣れた家からホームに来て出来るだけ精神的な混乱、ダメージを最小限にできるように家で使っていた馴染みの裁縫箱等持って来て頂いたり、家で家事でやっていた事でホームでも出来る事があれば職員と一緒にやって頂いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている ホーム＝家と言う事を共通理念として職員は利用者として生活している。利用者は祖父母で、父母であり人生の先輩として尊敬し良き関係を築く様にしている。	○	職員は介護してやっているという態度が、時々見受けられる事もあるので共に支えあう関係である事を再認識し支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来た時は、日頃の本人の状態、暮らしぶりを出来るだけそのまま伝え、離れて暮らしていてもお互いの良き関係を職員も一緒に築いていけるようにしている。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族が面会に来易いホーム作り、又職員にも気軽に話しやすい雰囲気になるように取り組んでいる。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会、家への行き来等支援している。毎月の新聞にて、ホームの状況報告等している。	○	施設での生活が長い人、又、認知症により関係継続が出来ない人もいてこの様な利用者、家族の支援をどうしていくかが課題です。
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	観察し、把握するよう努めている。利用者だけで意思疎通が困難な時は、職員が中に入り会話が成り立つように配慮している。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後も関連施設の概要で利用可能なこと等説明し理解して頂いている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとり落ち着ける場所や環境はさまざまです。本人の意向を一番に考えているが困難な場合は、2, 3の事例を用意して本人自身が選択できるように援助している。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面接にて家族、本人から拝聴しホームでの暮らし方の参考にしている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの個性を大事に安心して穏やかに過ごせる暮らしが出来るように努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	普段の暮らし方(過ごし方)を洞察し、記録して本人、家族、職員でそれを共有して話し合い作成している。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	一ヵ月ごとのケース会議、毎日朝、夕の申し送りの中から変化があった場合は検討し今現在の本人の状態にあった計画になるように本人、家族とも相談し柔軟に対応見直しできるようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを作成し毎日記録(ケア計画の出来た事、出来なかった事―何故出来なかったのか等)し何時でも誰でも見れる様にして共有、見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ここは家という機能をいかし出来るだけ本人の要望に柔軟な支援ができるようにしている。買物、ドライブ等。	○	その時々で本人の意向に添えない時もあり(職員の都合) 那样的場合はアフターフォローを十分に支援している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議の機能を生かし個々の利用者が必要としている地域資源について協力を得ている。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在はしていないが、これから必要があれば他機能も活用していきたい。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	していない。運営推進委員会で地域包括支援センター職員と話しをする機会があるのでこの事でも検討していきたいと思う。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の急変、普段の受診等いつでも適切な医療を受けられる様連絡を密にしている。		
41	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医とは認知症についての助言は頂いているが特に専門医の受診支援はしていない。が、必要があれば専門医の受診をうけられるようにいつでも支援していく。		
42	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	母体施設(老健)の看護職員とは相談、支援できる体制を整えている。		
43	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時、見舞いに行ったとき、情報交換している。退院後のことも当施設他、関連施設での受入れも可能である事も話す。		
44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、終末期ケアを希望する家族はいない。	○	終末ケアにおいては医師、看護師、医療設備のない中でのケアに成るわけで職員の技量と医療機関、家族との連携、がどこまで蜜にできるかです。利用者の状態変化により短期間での看取りケアも有り得るわけで、それについての施策も考えていきたいと思う。
45	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ホームで、「できること・できないこと」を見極め、今後の利用者の変化に備え職員、医療機関などと検討していきたい。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	細かく情報交換している。本人のメンタルケアには細心のケアを心がけ、家からホーム入所時は馴染のものを持参して頂くなどできるだけダメージを防ぐよう配慮している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は事前に一人ひとりのケースファイルの個人情報を共有し誇り、プライバシー侵害になるような言葉かけや記録はしない様配慮している。		
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者が職員に思いや希望を気兼ねなく話せるように普段からコミュニケーションを大事にし自己決定を支援している。		
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの自己決定を大事にしそれを優先し出来るように支援している。	○	一人で気ままに散歩したい人には本人が玄関を出た後職員が物陰からそっと見守り等している。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	職員、家族と美容院にいたり、理容師もホームに来て自由な髪型にしてもらっている。又、その日の服も自分で選んで着ている。(たまに声がけして替えてもらう事もあるが…)		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえ、盛りつけ、片付け等それぞれ得意な分野で手伝ってもらっている。利用者の体調により無理強いはいしていない。		
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲酒、喫煙を希望する利用者はいないが状況に応じて支援していく。月一回外食の機会を持ちレストランなどで個々好きな食べたいものを注文して頂いていて好評です。	○	毎日の食事献立には利用者の好みをもっと取り入れた物にしていきたい。
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンに合わせて対応している。便秘、下痢等の対応にも主治医の処方薬により調整している。		
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は午後からになっているが回数、入浴時間はゆっくりと入れるように個々の希望に配慮している		
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	私らしく暮らせるように家での生活リズムをそのままホームでも出来る様に支援している。	○	仏壇を自室に持ってきて水の取替え、お菓子のあげものなどしている人。お花屋さんだった人は、ホームにいつもきれいに花をいけてくれている。等など。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事活動への参加、ドライブ、買物、レク・趣味活動等、一人ひとり、活気ある日々になるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で管理している人もありいつもお金の計算をしたり、又ホームで管理し美容院、買物に行く時に渡している人もいて、力量に応じた支援をしている。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、近所の神社や、児童館の草花を見に行ったりし、そよ風を心地よく感じたり、鳥の声を聞いたりすることで、五感に刺激を感じられるように支援している。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節の行事（遠足、花見、菊祭り等）レストランでの食事、また個別でのドライブなど外出出来る様に支援している。		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由にして頂いている。電話番号のつながりの援助、手紙の代筆、読みの支援もしている。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪問して頂ける雰囲気作りを心がけている。又宿泊も可能である。		
(4) 安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が身体束縛について周知しており、束縛のない生活を実践している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を理解しているが、やむをえずかけることもある。	○	できれば、鍵をかけることのない日常にしたいと思っています。現在、職員の手薄になる入浴時間帯と危険の予想される時です。かといって毎回、毎日している訳ではなくあくまで危険防止の為です。
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の日常を監視するのではなく、個々の様子を目配り、気配りで安心、安全に配慮して過ごしていただいている。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬品、洗剤等は、目、手の届く所には保管しない様にしている。でも、いつも使う手あらいの石鹸、炊事の洗剤は適所に置いて職員が気配りし事故のないようにしている。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	介護事故、および、ひやりハットについての基本(5W1H)を職員全員で定期的に会議の中で確認し5W1Hの書き出している用紙を職員の目の届く所に張って常に目を通す様にしている。	○	もし事故があった場合は、小さい事でも書き出す様にしそれを職員全員で共有し全員の問題として受け止めている。
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	講習に参加し、定期的に訓練もしている。	○	H19年6月19日に当施設でも弘前市の出前講座で「あなたも出来る応急手当」で応急手当の基礎知識、心肺蘇生法、AEDの使い方の講習を受けました。それを、定期的に、確認しあっている。
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、昼、夜を想定しての訓練している。町内の人で結成された、地域災害協力隊の協力にて組織図も作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	その人らしく、自由に暮して頂く為に、起こりうるリスク面について家族に理解してもらい、安心、快、健やかに日常を継続出来る様に配慮している。	○	リスク面での対応策を一人ひとりのファイルに、記述している。それを職員で共有している。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、バイタルチェックを記録し朝、夕の申し送りのとき職員同志共有、対応を話しあっている。緊急時は主治医との連携も整えている。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、用量はファイルにまとめられていて職員が確認し、服薬の支援をしている。	○	服薬の確認。1、薬局から届いた時点で医師の処方通りの薬かの確認。2、分包時(朝、昼、夕、夜)の確認。3、手渡す時に名前の確認。4、服薬されたかどうかの確認。また、症状に変化があった場合はすみやかに担当医に連絡する体制をとっている。
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事の量、水分補給量、排便の回数と量のチェックの記録をし、便秘している時は記録を参考に対応している。又、散歩、掃除、炊事や、毎日のレク、体操で適度の運動もして頂いている。	○	できるだけ、座薬、下剤に頼らないケアを心掛けている。
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、うがい、歯磨き、義歯の洗浄、励行を援助している。一人でできない人にも支援している。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量、体重の記録をし、個々人の状態を把握して支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染マニュアルがあり、勉強会も開いている。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具はその都度消毒し、食材も冷蔵庫はあまり過信する事なく毎日、新鮮な食材を購入するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関脇には、果物、野菜、花を植え普通の家という環境に配慮している。	○	近隣の人達が気楽に立ち寄ってくれている現状にはまだなっていない、開かれた施設として模索していく必要がある。
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある生け花や、壁画などで季節を感じていただいたり季節の食事メニューも取り入れたりしている。採光も適度の明るさとテレビの音等も他の人にも配慮し適音に成る様に配慮している。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールをサロン風にし、入居者が気の合う仲間とお喋りしたり、テレビを見たり一人ひとりの自分の居場所作りを援助している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇、冷蔵庫、筆筒等なじみの品を持って来ている。そして、家にいた時と同じ雰囲気とペースで過ごしていただいている。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は1日の中で随時心掛ける様にし、来客がきても違和感のないよう配慮している。夏、冬の温度調節も入居者がどう感じているのかが大事であって、職員の都合に合わせることはしない様にしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能に合わせた居室配置にしている。トイレ、ホール、食堂への移動等、安全の為に周辺環境整備にも工夫している。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	プライド、羞恥心を守り出来る事は助長し、失敗したとしてもその場、その場を良い気持、良い感情で過ごせる様に工夫している。	○	今まで出来た事も、体調不良、想起障害等にて出来ないこともあるが、そのときは不安にならない様に接し今、出来る事をして頂いている。
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホール、和室、自室と建物全体が一つになっているような配置になっているので、その中で入居者は自由にテレビを見たり、和室で洗濯たたみをしたり、自室で筆筒のなかをかたづけたり、思いおもいに過ごされている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

日々の暮らしの中で家の延長ということを大事に過ごして頂き。家で日常やっていた家事等ホームでもなじみの暮らしの継続ができるように援助している。